

小竹だより

練馬区立小竹小学校 校長 泉崎 春海



平成25年5月号

No. 453

言葉の力

校長 泉崎 春海

朝、校門に立っていると、「おはようございます。」という元気なあいさつとともに、子供たちが登校してきます。

4月の年度始めから2週間、地域や保護者の皆様が「あいさつ運動」で校門に立ってくださいました。それに続けて、3週目からは、代表委員の子供たちが門に立ち、率先して「あいさつ運動」をしています。元気いっぱいにあいさつをする子供たちの様子からは、「今日もがんばるぞ」という意欲が感じられ、私もエネルギーをもらったような気持ちになります。気持ちのよいあいさつは、人を元気にする力があるように感じます。



以前、子供からこんな話を聞いたことがあります。「1年生の時に、学校にプリントを忘れて取りに行きました。教室でなかなかプリントが見つからなくて一人で困っていると、たまたま通りかかった先生が『どうしたの?』という声をかけてくれました。そして、プリントがなくて困っていることを伝えると、先生は一緒に捜してくれました。結局、プリントは見つからなかったけれど、先生が私にかけてくれた『どうしたの』の言葉は、6年生になった今でも忘れられません。」という話でした。自分が困っているときかけられた「どうしたの」という一言が、その子供にとっては、心に響く大切な一言になったという話でした。

この話を聞いて、私自身が「言葉の力」について、子供に教えられたように思いました。確かに、人は、困っているときかけられた一言で安心したり、がんばったときかけてもらった一言でさらに意欲がわいたりすることがあります。また、優しいことばをかけられると、気持ちが優しくなります。その反対に、乱暴な言葉やきつい言葉をかけられると、とげとげしい気持ちになったり、気持ちが沈んだりします。言葉には、人の気持ちを元気にしたり、その逆に人を傷つけたりする力があります。

今、子供たちのまわりには、テレビやゲームの影響のためか、きつい言葉や乱暴な言葉があふれています。ややもすると、その言葉に慣れてしまい、知らず知らずに使っている乱暴な言葉が、心の優しさを奪うことがあるかもしれません。

「美しい心は、美しい言葉から」このことを子供たちが意識して言葉を使うように日常的に指導し、相手も自分も優しくなれる「美しい言葉」がたくさん聞かれるようにしたいと思います。